

# 学術情報リテラシー教育と評価

平成22年度学術情報リテラシー教育担当者研修

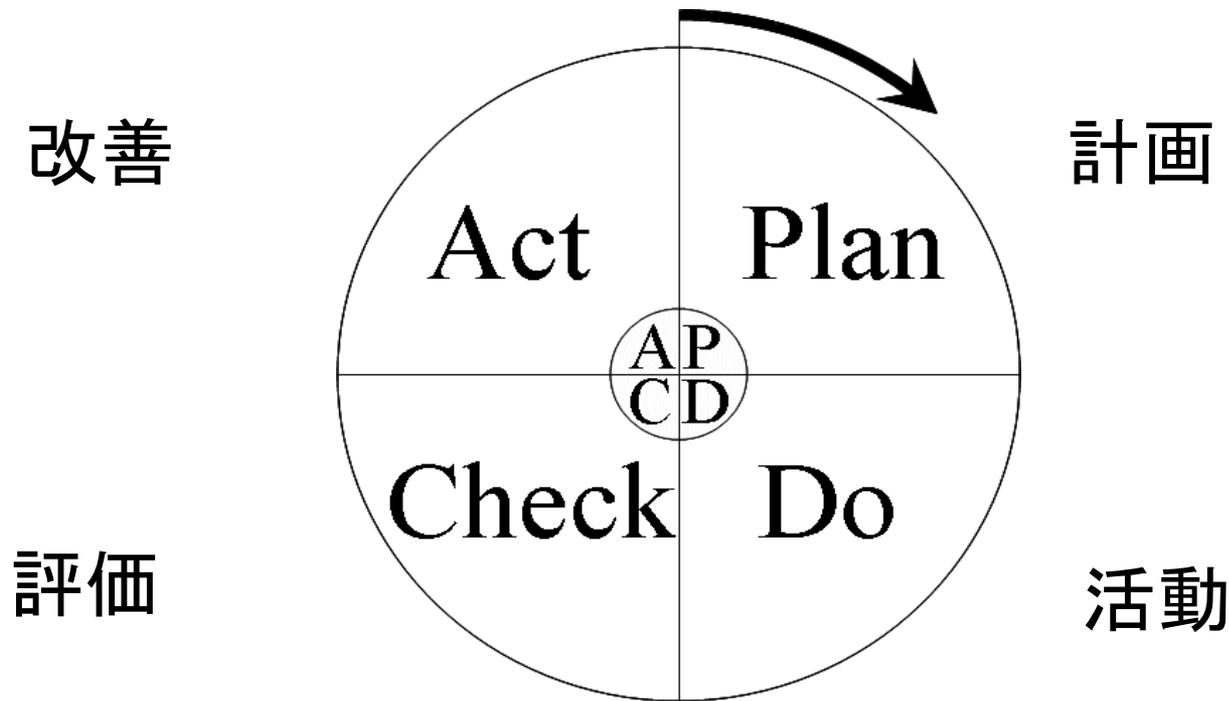
10月20日 大阪会場, 11月17日 NII会場

慶應義塾高等学校図書室

上岡 真紀子

# なぜ評価が必要か？

マネジメントサイクルにおける評価の位置づけ



# 図書館における評価活動

- 従来は、業務報告のための量的評価中心  
ex. 入館者数, 貸出数, 受講者数  
→ 受講者が多ければよいのか?  
→ 質はどうなのか?
  - アウトカム(成果)への注目  
ex. 利用者に自己評価してもらう  
満足度を調査する
- ⇒ 数値化して評価

# 量的調査から質的調査へ

- 統計, アンケート, 満足度調査など  
量的調査: 回答を数値化して評価

ex. とても良い, まあまあ良い, 普通, ...  
5段階で評価 など

しかし, どのように役に立ったのかの詳細は  
わからない



質的調査への志向

利用者に直接詳細を聞く, 利用者を観察する  
ex. (参与)観察, インタビュー調査

# 高等教育における 情報リテラシー教育の変化

- 利用者教育として図書館単独で開催
  - 内容や成果について、いかに評価するか



- 初年次教育として、カリキュラムにリテラシー科目を設置する大学が増加
  - 情報リテラシー科目の一部を図書館が担当

# 高等教育における 情報リテラシー教育の変化

- ファカルティ・デベロップメントの広がり,  
教育へのマネジメントサイクルの導入
  - 評価は, 科目単位, カリキュラム単位
  - 担当教員による評価の事例が増えつつ  
ある

---

\*ただし, 文献では, 相変わらず, 情報リテラシーという用語は, コンピュータ・リテラシーと読み替えられているものが多く, 図書館界での用語への理解との間に齟齬がみられる状況は同じ

# 図書館における評価の2つの側面

では、図書館員は？

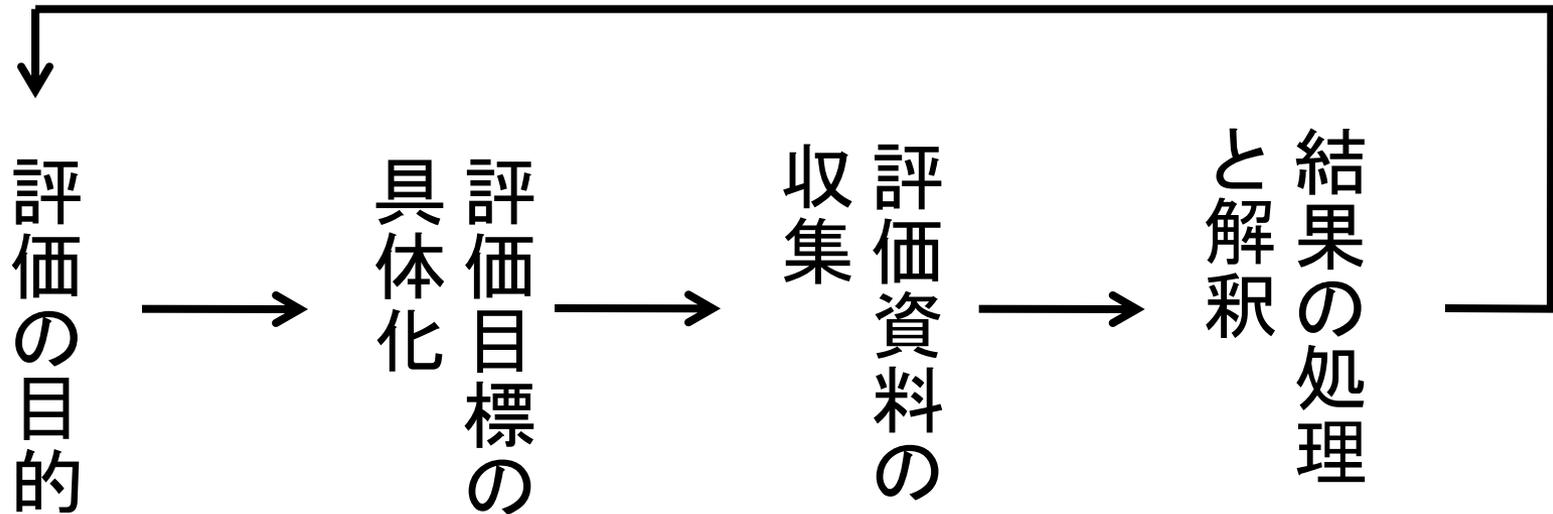
- 事務職の立場からのアプローチ
  - サービスを改善するための評価
  - : サービス評価
- 教育を一翼を担う立場からのアプローチ
  - 教育を改善するための評価
  - : 教育評価

⇒ もちろん、両方を行う



# 教育評価の手順

利 用



# 評価のタイミング

- 事前的評価
  - 活動の開始前に企画を適切なものにするために行う
- 形成的評価
  - 活動中に、活動を最も効果的なものに軌道修正するために行う
- 総括的評価
  - 活動の成果を把握するために行う

# Step1 評価の目的を明確にする 情報リテ教育における課題(抜粋)

「負担の割には学生のリテラシーを効率的に向上しているとは言い難い」

「レポートや卒論を作成するという目的に十分活かされているのか」

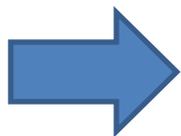
「それぞれのニーズがつかみにくく、関心を引き付けることが難しい」「寝ている人が多い」

「レベルに応じて段階的に教えるにはどのようなプログラムにすればよいか」

⇒ やはり、目的は、情報リテの内容を改善すること

## Step2 評価目標の具体化

- 「負担の割には学生のリテラシーを効率的に向上しているとは言い難い」
  - 本当に必要とされていることは何か？
- 「レポートや卒論を作成するという目的に十分活かされているのか」
  - 学生の評価はどうか？  
学生のニーズに合致しているのか？



「学生のレポート作成における学習支援のニーズを調べる」

# 評価側面と評価方法

	興味・ 関心	知識・理 解	思考力・ 論理力	態度	技能
標準テスト		◎	○	○	
教師作成テスト		◎	○	○	
質問紙法	◎			○	
面接法	◎	◎	◎	○	
観察記録法	◎	○	○	○	◎
レポート法	○	○	◎	◎	○
製作物法	◎			○	○

# 評価手法を決定する

評価の目的によって適当な手法は異なる

ex.

- 「受講者がどれだけ知識を学んだか？」
    - テスト
  - 「提供したサービスがどれだけ役に立ったか？」
    - アンケート(自己評価)
    - インタビュー
- \* 何らかの形で利用者に評価してもらう

# Step3 評価データの収集 テスト

- 知識の有無を確認するのに適している
- 「～な人が〇〇%」のように、量的に把握することができる
- 数値で表現されるため、グラフ化などで視覚にも訴えやすい



# 事例：テスト

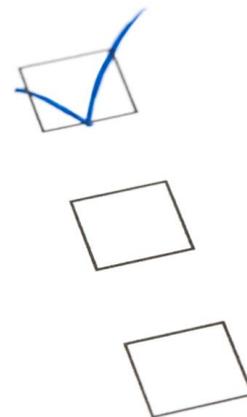
- 国際基督教大学(2005)  
プログラム受講の前後にテストを行い、点数を比較  
調査対象：ELP履修者である1年生と2年生

## 問題例：

1. ICU図書館の資料はどのような順番で並んでいますか
  - ア) タイトルのアルファベット順
  - イ) 図書番号順
  - ウ) コールナンバー順

# Step3 評価データを収集する アンケート

- どのように感じているか，興味の有無などを聞くのに適している
- 「～な人が〇%」のように，量的に把握することができる
- 数値で表現されるため，グラフ化などで視覚にも訴えやすい



# 事例：アンケート

ex. 三重大学(2006)

マーケティングの視点から、学生と教員に分けて満足度を調査。

学生対象のものは「図書館からの30の質問」

- ・必要としている情報・文献が探せると思うか  
「探せそう」が9割
- ・全体の理解  
「よくわかった」の割合が漸増

# Step3 評価データを収集する 観察

- 利用者が無意識に行っているような行動を観察することによって、本人も気づいていない、無意識レベルのニーズを把握する

# Step3 評価データを収集する インタビュー

- アンケートではわからない詳細な内容について、利用者と直接やりとりしながら把握することができる
- グループインタビューは、参加者同士の相互作用によって、気づきをもたらされることから、潜在的ニーズを探るのに適している



# 事例：グループ・インタビュー

慶應義塾大学(2007)

1, 2年生を対象に, 図書館によく来るグループ, 来ないグループにフォーカス・グループ・インタビューを実施

・「情報リテラシー入門」はどうだった？

「正直出てない人の方が多かった。課題だけやって終わらせた人もいるし。私はなんだかよくわからなかったです。(内容が難しかった?) う～ん, 記憶にないからそこまで印象にないのかな。普通のことを言われた記憶があります。」

「いきなり検索のコツみたいのがあって, 課題も面倒くさくて, そんなことしなくても別の方法で情報は得られるし, みたいな感じで。入門的なことすぎたのかなと。」

「図書館をより効率よく, 本を検索できるようにということだったら, あれが限界かなと思いますけど。」

# 評価側面と評価方法

	興味・ 関心	知識・理 解	思考力・ 論理力	態度	技能
標準テスト		◎	○	○	
教師作成テスト		◎	○	○	
質問紙法	◎			○	
面接法	◎	◎	◎	○	
観察記録法	◎	○	○	○	◎
レポート法	○	○	◎	◎	○
製作物法	◎			○	○

# 情報リテラシー能力とは

- 知識・スキル, 批判的思考力, 判断力, 論理的思考力, 表現力, 総合的問題解決力...  
= 高次の能力を含む

知識やスキルがあるからといって、  
情報リテラシーがあるといえるのか？  
高次の能力はどのように測るのか？



# 新たな評価法 ポートフォリオ

- ポートフォリオ：学習成果の集積
  - 80年代以降の学習観のパラダイムシフトを契機として、イギリス、アメリカで広まる
    - 学習過程を可視化していくことで、学習者に形式的に振り返りを促す
    - 教師は学習者の状況を把握し、学習者の気づきや変化を促すためのフィードバックを行う
    - 学習者自身も自己評価が可能になり、自律的な学習が促される
    - 総合的な評価が可能

# 事例：ポートフォリオ

- 金沢工業大学：KITポートフォリオシステム
  - Webによる教師と学習者自身による形成的なモニタリングが可能なシステムを開発

# 1週間の行動履歴

環境・建築学部 建築学科 Bさん

※R・・・レポート、P・・・プリント

月/日	曜日	欠席・遅刻科目・理由	予習・復習・課題 ・所要時間(分)	部活動・利用施設・アルバイト などの内容・時間帯
5/15	日		技術者入門・R・150分 数理統合 I・R・180分 工学基礎ドローイング・120分	LC10:00～12:30 自習室14:00～19:00
5/16	月		外国語小テスト勉強 工学基礎実験・課題・60分	食堂10:00～10:30 自習室10:30～11:00 / 15:30～17:00 夢考房17:00～20:00
5/17	火		数理工統合 I・R・180分	食堂13:00～14:00 自習室14:00～15:30 買出し15:30～16:10 夢考房18:00～19:00
5/18	水		数理工統合 I・課題・180分 修学基礎・R・30分 コンピュータ基礎演習・90分	食堂10:00～11:00/12:10～14:00 自習室14:10～18:00 本屋18:10～18:40
5/19	木		工学基礎実験・課題・120分 数理工統合 I・テスト勉強・60分	食堂10:00～12:30 夢考房17:00～20:30
5/20	金		修学基礎 I・課題・300分	修学相談室前(プレゼンテーション準備)17:00～19:00 自習室(プレゼンテーション準備)19:00～22:30
5/21	土		数理工統合 I・R・30分 建築学大意・R・40分 外国語学習法・R・180分 工学基礎実験・課題・40分	野々市町役場(建築学大意の課題)9:00～12:30 食事13:00～14:00 妹島さんの講演会14:30～17:30 自習室17:30～24:10

## 【この1週間で特に努力した点、反省すべき点とその対策、日常生活において困った点など】

今週は自習室を出来るだけ活用して、課題を終わらせるように努力した。先週は時間を有効利用できなかったが今週はそれが出来たのでよかったと思う。講演会にも参加できたのは自分自信を深めるためにもよかったと思う。また、遅刻・欠席もないのでこの調子で来週もがんばっていきたい。(132文字)

戻る

印刷する

やらなくてはいけない課題を事前にメモって課題をした。

スケジュール帳に細かい時間を書き込んで入力した。

# 2期の達成度自己評価

①反省点をまとめ、次学期での目標を定めるためにできるだけ客観的な評価を行った。

工学部 ロボティクス学科 Dさん

## 1)【「修学基礎Ⅱ」の「学生の行動目標」の達成度について】 (達成できなかった原因と改善方法)

今学期においては、学習目標が全て達成できたとは言えない。学期後半では、頻繁に授業を休んでしまい、授業の内容が不理解のまま試験に臨んでしまった科目もあった。原因は、睡眠不足と食事回数の減少による体力の低下である。学期始めは、勉強会に参加して学習の理解を高めていたが、後半になると無理することが困難になった。来学期に今学期と同じような失敗をしないために、夜中心の生活から朝早めに起床する規則的な生活スタイルを身に付けなければならない。(215文字)

②私は講義への出席率はあまり良くない。そのため、各学期でこのような解決策を講じ、次学期実践することを心がけている。これを繰り返したことにより、現在は少し出席状況が向上しつつある。

## 2)【2期の全科目の修学状況についての反省と改善方法】 (成績・課題提出・出席など)

今学期を通しての科目への取り組みは、英語を除いては特に大きな問題もなく進めることができた。勉強会の効果があったため、授業の理解や試験の結果も先学期以上であった。課題についても、ほぼ提出期限は守れたと思う。しかし、やはり出席状況は芳しくなく、今後改善しなければならない課題が残ってしまった。来学期は、今学期の成績を維持しつつ、全教科皆勤する気持ちで授業に臨むよう心がける。取得単位数を増やすために、努力していきたい。(207文字)

②好成绩を修められたことに対し分析を行い、唯一の問題が講義への出席状況であると確認した。

(214文字)

## 3)【2期の生活状況全般についての反省と改善方法】 (課外活動・アルバイト・病気・怪我など)

今学期は体調を崩すということにはなかったが、睡眠不足や栄養不足など生活面で問題があった。課外活動のために外で食べる機会が多くなり、偏った食事ばかり取っていたため、集中力が低下していた。なるべく休日にバランスのとれた食事を作っておくようにすることで、問題解決を目指す。課外活動については、プログラミング関連で勉強しなければならない内容が多くなり少し忙しくなってきたが、その分興味深い内容が増え、満足している。(202文字)

(209文字)

# 新たな評価法 ルーブリック

- ルーブリック: 到達目標に基づいた評価基準
  - ポートフォリオ評価法とともに普及
  - ペーパーテストでは評価しにくい観点について、客観的に評価できるようにしたもの
  - 妥当性を担保するために、教師がグループで作成する
  - 学習者が到達目標を理解し、自己評価を行うことで、自律的な学習を促す

# 事例：ルーブリック

- カリフォルニア州立大学

## Rubrics for Assessing Information Competence in the California State University

ACRLの能力基準に基づいたもの

ACRL Standard	Beginning	Proficient	Advanced
<b>1. Determine the Extent of the Information Needed</b>	Student is unable to effectively formulate a research question based on an information need.	Student can formulate a question that is focused and clear. Student identifies concepts related to the topic, and can find a sufficient number of information resources to meet the information need.	Question is focused, clear, and complete. Key concepts and terms are identified. Extensive information sources are identified in numerous potential formats.

# まとめ

1. 情報リテラシー能力を評価するための最良の唯一の方法はない
2. 複数の評価方法を組み合わせ、
3. 改善のために、PDCAサイクルを回し続ける
4. 教育に関わる者として、学生の学びと教育に対する理解を深め、
5. 学生の能力の育成に貢献しましょう！



Good luck!